

君さんの摘草

太田龍東

(上)

寒さは去りて春來たる、

花は笑ひて鳥うたふ。

妾ことしの試験には、

第二の席で四年生。

うれしや雨は霽れ上る、

黒雲流れて風は止む。

明日の第四の日曜日、

樂しや摘草喜しいな、

早く明日が來ればよい。

姉さんよいかこしらえは、

呼んで來ますよ友達を。

梅さんお出で呼びに來た、

妾今朝から待つてよ。

それぢや之れから皆さんと、

行かふや早く摘草に。

籠は一昨日叔母様の、

肩打ち賃に戴いた、

お錢で昨日買つて來た。

(中)

母様留主を頼みます、

土産はたんと此籠に。

いーえ嘘ではありませぬ、

さつと歸りを見て御覽。

道案内は姉さんよ、

妾は後に梅さんと、

手を引き連れて歌唱ひ、

楽しく二人でついで行く、

ほんに喜しい今日の日や。

天氣のどかで風もなく、

蝶はみ空にひーらひら。

廣き野邊には草花が、

赤白黄とこきませせて。

中にもすみれ蓮華草、

たんぽぽなどは美しく。

君さんお出で梅さんも、

待つて居ましたさあ遊び、

と云ふのは誰、花の神。

(下)

遊戯は何か赤十字、

梅さん妾が教へます。

手を取り歌を唱ひつゝ、

前に進みて左むき、

止まりてそこで一二三、

拍子とつて又返へす。

次は鬼ごと面白や、

姉さん鬼で眼をかくす、

鬼さんこつらばつらばら。

すみれもよいが此花は、

何と云ふだろきれいだね。

これも母へのお土産に、

われも母へのお土産に。

籠には最早這入らない、

姉さん歸る日が暮る。

手に持つ花を慕ひ来る、

蝶よお出で共にゆこ、

今宵の宿はこの籠に。

(完)